2025西日本遠征　選手スピーチの内容

イトゥアーノ横浜　３年　羽根　蓮人

3年の羽根　蓮人です

僕はまずこの遠征でどんな相手でも、自分のよさ技術を出すということを目標に挑みました。そのためボールを受ける前は周りをよく確認して、できるだけ選択肢を２、3個もつようにして挑みました。その結果ドリブルで突破したり、相手の背後をつくパスを出すことができました。それでもミスすることも成功することと同じくらい多かったので、チームの練習、試合、自主練で自分の弱いところも伸ばしつつ、自分の強みみそももっとのばしていきたいです。また試合数を重ねていく中で時間がたつにつれ認知や判断、決断のスピードが遅くなって多くの選択肢を持つということが少なくなってしまうという課題も見つかりました。なので、普段の練習か認知、判断、決断のスピードをはやめ、行い続け持続できるようにしたいです。またディフェンスの寄せ方、取り方のコツを少しずつつかんできてインターセプトやボールをとる力が遠征前よりもついたと思います。これからも練習や試合をとうしてマスターしていけるようにしたいです。この遠征の最初のチームは互いに遠慮し合っていた感じだったけれど、オフザピッチを中心にたくさんコミュニケーションをし、遠征の後半にはいい意味で言い合える1つのいいチームになれたと思うので良かったです。ほんとにこのチームがめぐりあえて良かったなと思いました。社会見学では知覧の特攻隊で特攻した人たちの遺書のはなしを聞いて戦争は絶対に繰り返してはいけないことだとあらためて思いました。特攻した人たちは生きたくても生きられないという人たちの思いを継ぎ1日1日を大切に生きていこうと思いました。明日を生きたくても生きられないという人たちが、長崎、広島の平和記念資料館での放射線により体の異変がおきている写真をみて戦争や核兵器の恐ろしさがとても伝わってきました。そして平和が大切さについて考えさせられました。また厳島神社や太宰府天満宮にいってそのまちの風景や文化について学ぶことができました。僕はこの遠征でサッカーも含め人間性も少しは成長できたと思います。この遠征で学んだことを生かしていきたいです。最後に田崎コーチ、おきむねコーチご指導、運転長い間ありがとうございました。また遠征費の負担をしてくれたお父さんお母さんありがとうございました。

座間FC　３年　曽根　心響

３年心響です。

僕がこの遠征でチームとして成長したいと思ったことは、試合中や生活面でのコミュニケーションを増やすことです。僕がこの目標にした理由はチームでの団結力を高めるためにみんなで声をかけて連動して行動することが今の僕らに必要だと思ったからです。これを意識したことによってサッカー面、生活面で様々なことを得る事ができました。まずサッカーについて話します。新しいチームメイトの藤沢FCの子たちも入ってきてチームでもやったことなかったフォーメーションの3-6-1やったことないフォーメーションでプレーすることができた。最初はまだ慣れてなくてコミュニケーションも全然取れていなかったけど、みんなと生活しているうちにコミュニケーションをとることができるようになってきて、チームとしてフォーメーションがはまってきて連携してプレーして俺たちのサッカーをすることができるようになって昨日の試合みたいにみんなで声を出してサッカーを楽しむことができるようになった。生活面で学べたことは、まず知覧特攻隊での遺書の説明動画を見て、学んだことは僕らとあまり変わらない年の子たちが国や家族を守るために命を捧げ、でっかい相手の船に突っ込む勇気がほんとに凄くて今の僕にはできないとおもいました。だけどその人たちのおかげで今の僕たちの生活があるのでその人たちの平和への思いを大切にしてこれからも生きていこうと思えました。長崎原爆資料館、広島原爆ドームでは当時の人たちの被爆の悲惨さや想いを読み取れるような凄いところだった。生きたくても生きられない、水も飲むことができない人たちがどんだけ苦しい思いをしてきたのかすごく想像することができる場所で俺たちに命の大切さを教えてくれる場所だった。宿での過ごし方では、最初は相手の立場になって行動することができなかったけど、どんどん自分以外の周りのことも見えてきて、みんなで少しずつ目配り、気配りができてきたのかなって思いました。僕たちはこの遠征を通してみんなでチームを盛り上げる声を出しながらみんなで連携して目配り、気配りを遠征前より意識してサッカーのプレー面でも生活面でも成長することができたと思いました。田崎コーチ、沖宗コーチ２回もこんな貴重な体験をさせてくれてありがとうございました。運転もよろしくお願いします。お疲れ様でした。終わります。

FC Fujisawa３年　濵 海音

今回の西日本遠征で、自分は守備の部分を主に改善しようと臨みました。10日間の遠征で特に変わったことは、少しずつ相手と競れるようになれたり、球際を強く行けるようになったことです。特にヘディングの所は、最後の試合の日に唇を3針縫う怪我をしてしまったけど、それくらいヘディング強く行けるようになったと思います。インターセプトする時に、最初の方はパチンコ玉のようにずっとクリアしていたけど、最後の方はしっかりと足元にボールを残して味方にパスをつけることが出来ていたところも成長したかなと思うし、課題だった部分を少しでも改善できたのかなと思います。ですが、まだまだボールを持った時の判断だったり、パスがズレたりしている部分があるのでFC Fujisawaに戻って今回の遠征で出た課題を少しずつ改善したいなと思います。そして、今回良くなったヘディングや球際のところをもっと良くできるようにしたいと思います。

平和学習についてで、知覧特攻平和会館や原爆資料館で戦争の恐ろしさについて学べて本当に良い経験になったなと思います。知覧では、特攻隊として行った人の遺言を聞いたり見たりして、心が痛くなったし原爆資料館で核爆弾の恐ろしさや、原爆での被害などを知れてよかったです。

最後に、10日間運転や指導、アドバイスをくれた沖宗コーチ、田崎コーチ本当にありがとうございました。お金を出してくれて貴重な経験をさせてくれた親には感謝しかありません。この遠征での経験を活かして、FC Fujisawaに戻ったあとも更に成長できるように頑張ります。

イトゥアーノ横浜　3年　井上　真聡

僕はこの遠征で自分で突破する気持ち、諦めない気持ち、最後までやりきる気持ちなどメンタル面で特に成長できたと思います。

沖宗コーチとの面談のときに言われた「何回失敗しても挑戦し続けろ」という言葉を受けて失敗を恐れず挑戦し続けることができて、結果遠征前よりも自分で突破できる回数を増やす事ができました。また自信をつけることにもつながって試合最終日では自分からチームを盛り上げる声などを出すことができるようになりました。

また回数は少なかったけれどスライディング、守備のときやルーズボールを拾う時に体を張ってボールを奪う、キープするなど遠征前の自分ではあまりできなかったプレーをできるようになりました。

サッカー面だけでなく生活面でも成長できたと思います。移動スピード、スリッパの置き方、待つときの立ち位置など時間厳守、目配り気配りを自分なりにできました。

他にスピーチ、あいさつ、返事など声を出す場面では相手に聞こえるよう腹から声を出すこともできました。

社会勉強は戦争のことについてで、これを通して自分で見て、考えて、発信することの大切さを学べました。

これからの課題はサッカーではスローインの投げ方です、この遠征中ファールスローや取りづらいボールを投げてしまっていて相手に取られてしまう場面が多かったので改善していきたいです。2つ目は縦の上下運動のスピードを速くすることです、攻撃から守備、守備から攻撃の切り替わりのとき、上下運動が遅く攻撃参加に遅れたり、守備では簡単に裏を取られてしまうことがあったからです。3つ目は左足でのトラップ、クロスを蹴れるようにすることです、自分の利き足のアウトで触る癖がありそのせいでセカンドタッチをするタイミングで取られてしまう事が多かった、縦に突破できても蹴るボールが弱く得点に繋がらなかったので改善し、左右どちらのポジションでもできるようにしたいです。生活面では自分のことだけでなく周りもサポートできるようになることです。自分の周りのことは気をつけていられたけど他の人のところまで気にすることができておらず、チーム内で粗相が起こってしまっていた事があったのでこれも自分がサポートできるようになりたいです。

この遠征は正直きつかったけど成長がある、来てよかったと思える遠征にできました。

最後に田崎コーチ、沖宗コーチ、10日間ありがとうございました。

ティダまでの運転よろしくお願いします

FC　Fujisawa　3年　宮﨑　悠人

今回の座間FCとの9泊10日の合宿に帯同させていただきありがとうございました。

自分はこの合宿に行く前までは心が未熟で戦う心などが全くなくて、相手にすぐに潰されてしまうシーンが最初は多かったと思います。でも自分は、この合宿を通して相手に負けたくないと思うようになって取られても必死に取り返しに行くようになって運動量などがガラッと変わりました。

その運動量のおかげで高校の方からも褒めてもらい、自分はサイドバックやサイドハーフをメインにやらせてもらってて今回の合宿では滅多にやらないボランチ起用をさせてもらい、いろんなフォーメーションでやって、ボランチの楽しさとそれとは逆に難しさや課題などがたくさん出ました。それで今回の合宿で出た課題をまたFujisawaの方に持ち帰り課題を1個1個こなしって、また今度座間FCとやる時には相手にいて厄介な選手になれるよう頑張ります。社会見学は広島や長崎、知覧特攻隊に行き、戦争の恐ろしさ、核兵器を使ってどれだけの人が苦しく痛い思いをして亡くなったが分かる場所で、そこではもう二度と戦争をしては行けないと思いました。そしてその被爆者などは僕たちのように普通の生活が出来なく苦しい生活だったと書いてあり、僕たちは普通の生活が出来ることに感謝し、出来なかった人がいると思いながら生活しないと行けないと思いました。

沖宗コーチ、田崎コーチ、ここまでいろんな指導、運転していただきありがとうございました。座間FCで9泊10日の合宿できてすごく楽しかったです。10日と言う長い間ですがありがとうございました。ティダスポーツパークまでの運転よろしくお願いします。

座間FC　2年　細淵　英汰

僕はこの遠征で成長したことと新たな課題、遠征わかった僕の悪いところ、平和学習について話します。

成長したことは2つあります。

1つ目はたくさんパスを受けに行けたことです。遠征前はミスを怖がってボールを要求しなかったりミスをしたことをずっと引きずっていたりしていたが、沖宗コーチのアドバイスでミスをしてもいいからたくさん受けろ。と言われてから、自分からパスを要求したりミスをしてもすぐに切り替えられたりしました。

2つ目はすべてクリアをするのではなくトラップしてからパスをつなぐということです。クリアは味方にパスをしたつもりでも相手にパスをしてしまったりしてしまうが、一度トラップをしてからパスをつなぐとパスのミスが少なくなったしマイボールになりやすいなと感じました。

次は課題です。いくつかあるのでその中でも特に課題と感じたことをいいます。

それは走れないことです。この遠征で、きつい時に自分を守る行動をしてしまいました。その分味方の10人に負荷がかかることを実感したし申し訳ないと思いました。なので、日頃の練習や練習試合、家で走るなどを今よりも真剣に取り組んでいきたいなと思いました。

次は悪いところです。

それは疲れた時に自分のミスを人のせいにしてしまったことです。それは人間性の問題なのですぐに直します。

次に平和学習についてです。

鹿児島や長崎、広島で平和学習をしました。鹿児島では死ぬのをわかって特攻している特攻隊員の気持ちなどが分かりました。長崎では放射線の怖さについて学んで、広島では講話を聞きました。講話では爆発の被害の大きさなどを学びました。平和学習をして今の生活がどれだけ恵まれているか、昔の人たちがどれだけ苦労したかなどを感じられるいい機会になりました。

最後に長い時間の運転や宿の予約、強いチームとの試合を組んだりして影で支えてくれた田崎コーチ、審判や僕たちのプレーに対して本気で指導してくれた沖宗コーチ、お金を払って遠征に行かせてくれたお父さん、お母さん、10日ありがとうございました。ティダスポーツパークまでの運転お願いします。

座間FC　2年　林　煌己

スピーチを始める前に改めて田崎コーチ、沖宗コーチとみんなに謝罪をしたいと思います。ユニフォームを忘れた事、借りたユニフォームを返し忘れた事などの粗相で迷惑をかけてしまい本当にすみませんでした。

スピーチに入ります。僕はこの遠征でサッカー面、生活面で成長した部分について話したいと思います。まずサッカー面についてで、最初の遠征の抱負では「試合中常に目配り気配りをしてチームを一つにする」という目標を立てました。ですが初日のユニフォームを忘れるという粗相で1日目は試合には出られずに副審として試合を傍観することしか出来ませんでした。当時自分はなぜ忘れてしまったのか、ずっと自問自答を繰り返していました。初日と２日目は粗相をしたことの罪悪感で自分のやるべきことを完全に見失っていました。このままではこの遠征に参加した意味が無くなる、何も成長ができないと感じ２日目から本格的にサッカーノートで振り返りを始めました。ノートでこれからどうしていくかを書いていくうちに最終的には「粗相をした分チームのためにサッカー面でも生活面でも全力を尽くして取り返そう」と決心しました。３日目から試合で良かったこと、悪かったこと、フォーメーション、コーチから言われた事等細かい詳細まで書いていきました。徐々にモチベーションが上がってきて６日目の長崎日大高校との試合では攻守の時に左サイドで上下のピストンを繰り返せた事や、９日目の九嶺、ピジョンとの試合では右サイドで縦突破とセンタリングの回数が格段に増え、試合に貢献できた場面が増えて少しずつですが成長を感じることができました。粗相をしてしまっても「自分はもう終わりだ」と諦めて投げ出すのではなく試合に出る以外の方法で小さい雑用等で少しでもチームに貢献できることはあるんじゃないかと常に思考はやめないで"考動"することが1番大切だなと身に染みました。

続いて生活面では、主に観光の感想について話していきたいと思います。まず5日目の長崎原爆資料館について、飾られていた展示物の中には原爆の熱線を受けて焼き溶けてほぼ原型を留めていない岩や放射線を体に浴びて顔や体に浴びて全身の皮膚が爛れて歩きながら助けを求めている映像や写真を見て本当にこんな事が80年前の日本で起きたのかと思いました。これからも今ある平和を当たり前と思わずに亡くなった人たち意思や想いを無駄にしないようにこれからの日常でも戦争について学ぶ機会を増やしていきたいと思います。

僕はこの遠征で、学びになったことが一つありました。それは「粗相をしてもすぐに気持ちを切り替えて次の先手を読んで行動する」ことです。もし試合中暑さに負けていたり、何か忘れ物をしてしまったりするなど個人のミスが起こってしまったら周りがカバーしなければ結局全体の責任となってそれでチームの雰囲気が悪くなってこの遠征がみんなにとって良い経験にならなければサッカー面でもメンタル面でも親に自信を持って「ここが成長できたよ！」と言えないと思います。だから普段の練習、試合からチーム一人一人が一丸となって先手を読む行動を意識・継続していき、この遠征という機会で普段からの積み重ねが発揮できれば座間FC全体が格段にレベルアップすると思います。なので、今回初めての西日本遠征の経験、起こった出来事を次に活かせるように毎日ノートに書き記していきたいと思います。

最後に長時間の運転、指導、引率をしてくれた田崎コーチ、沖宗コーチ、対戦してくれた中学生、高校生の方々、遠征の費用の面で支えてくれたお母さん、お父さん、帯同してくれたFC藤沢の3人、チームのみんななどがサポートしてくれたおかげでこの遠征が成り立ちました。10日間本当にありがとうございました。

座間FC　3年　南　春輝

僕は今回の遠征でできなかったこととその改善点について話します。まずはサッカー面についてです。最初の方はあまり良くできませんでした。その理由として1つ目は暑さに負けていたことです。西日本は気温も高くて湿度も高くてアップの時点から暑くて体をよく動かせませんでした。そして試合でもちょっと動いたらバテてしまって頭を休ませてしまっている時があったので暑さに負けていたと思います。2つ目はパスやトラップが良くなかったことです。特に最終日前の試合で、サイドバックのポジションをやった時に、1回ミスをしてそこから焦ってしまって連続的にパスミスやトラップミスをしてしまいました。暑さに負けていたのは試合をするにつれて慣れてきたので、慣れていない時にどれだけ自分に厳しくプレーできるかが大事だと思います。パスやトラップミスは個人的なミスなので、アップをしっかりやって、試合では自分に自信を持ってプレーしたいです。

次に平和学習についてです。僕からは知覧特攻隊記念館について話します。知覧特攻隊記念館では、あらためて特攻するという恐ろしさを感じることができました。講和では、5人の特攻隊員と1匹の犬の話をしていて、特攻する2時間前にあった犬と笑顔で戯れていて、これから自分は死に行くのに、笑顔でいられることも凄いし、死ぬとわかっていて特攻するということの怖さを感じられました。今回の遠征でいろんな体験をすることができました。初めて西日本に来でサッカーをすることができたし、初めての景色をいっぱい見ることができました。その他にもいろんなことを体験できました。でもそれができたのは、運転や指導をしてくれたコーチ達、お金を出してくれた親、試合をしてくれたチームの人などいろんな人が関わってこそできた遠征なので関わってくれて人達にとても感謝をしています。10日間の間お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

FC　Fujisawa　3年　菅野　生杜

今回の合宿で、自分は、初日に、自分の武器のコーチングだったり、シュートストップが全然出していなく、自分自身をアピールすることができていなかったです。またコミュニケーションも取れなく、チームに全然馴染むことができていなかったのですが、試合や日にちを重ねるごとに、自分を前面に出せるようになっていき、チームにもどんどん馴染んでいくことができていた。それに試合数を重ねるごとに、自分自身がどんどん成長しているのも実感できて、とても楽しい合宿でした。また、最初課題になっていた。1対1の判断は、タイミングを間違え無くなったり判断ミスが減ったりしました。ロングキックの質は、ボールの飛距離が出てピンチになる回数が減りました完全に改善することはできませんでしたが、また、裏のケアだったり、前回の課題から引き継ぎ判断の悪さなど新しい課題も見つかり改めて成長を実感することが出来ました。また社会勉強では、　自分が行ったことない所だったり、資料感だったりに行って、戦争の恐ろしさや、悲惨を知ることが出来きました。また。家族の大切さも改めて知ることが出来ました。自分は、この遠征をとうしてサッカーだけではなく気持ちのめんでも成長出来たと思います。これからも感謝を忘れずに過ごして行きたいです。

座間FC　３年　太田　怜生

自分はこの遠征を通して、精神的にも技術的にもたくさんのことを学ぶことができました、慣れないメンバーや多いい試合数の中で、苦しい瞬間もあったけど。そんな中でも声を掛け合い、助け合って、一人一人が最後までやりきったことができたと思います個人では、ファーストコントロールの質やキーパーとの一対一の決定力の低さにこの遠征で気が付きましたそれはこれからの練習で上手くなりたいと思います、逆に成長できている部分にも気づくことができました、でもそれ以上に感じたのは仲間の大切さです、試合中にプラスの発言で励ましてくれたこと、オフの時間にみんなで笑い合えたこと、全部が自分にとって大きな思い出になりましたもちろん、遠征の結果だけを見れば、満足できた試合、悔しい試合、いろいろありましたが、それ以上にこの経験がどう活かせるかが重要だと思いますこの遠征という経験を活かして、もっと上を目指していきたいです、サッカーで一番大切なのは楽しむことなのでこれからも楽しく苦しくみんなとサッカーをしていきたいと思います、最後にこの遠征を実現してくださった沖宗コーチ、田崎コーチそして高い費用を出してくれた保護者の方本当にありがとうございました、これからも感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいと思います皆さん10日間という長い間お疲れ様でした。

座間FC　2年　荒井　和斗

　僕は今回の10日間ある遠征をすごく貴重な体験にすることができました。それはサッカー面や学習面でたくさん学ぶことがあり、特にサッカー面ではとても成長することができたからです。

　サッカー面ではチャレンジすることを大事にし、今までできていなかったことができるようになったり、プレーの意識が上がったりしました。そして成長したことが主に二つあります。一つ目はボールを奪うために相手に体を強く当てることです。僕は遠征の前では、コーチに相手を削るぐらいもっと体を強く当てろと怒られていました。このようなことがあったからこそ、僕はこの遠征でボールを奪える選手になろうと思いました。試合では高校相手だったということもあったのでフィジカルでは負けていましましたが、それでも怪我することを怖がらないようにし、ボールを奪いにいったり、ボールを取りきれなくても最後まで足を出して自陣ボールにしたりなどのことをし、ボールを奪う力を少しでもつけました。またこの意識でこれからの練習や試合で頑張り、もっとボールを奪う力をつけていきたいと思います。二つ目は次のプレーがボールをもらう前にイメージすることです。理由としては、そうしないと次のプレーが遅れてしまい相手にボールを奪われたりして、チームの勢いを止めてしまうからです。僕はワンタッチプレーを増やすことや次のプレーを迷わずにプレーすることを意識しました。そうしたことで、チームの流れがついていいプレーに繋げることができました。他にも浮き球の処理を落ちついてして次のプレーをできたことやスペースに出すパスをたくさんできました。

　しかし、僕には大きな課題があります。それはボールを持ちすぎて、チームの流れを崩すことです。特に疲れた時に視野を確保してなくて、ドリブルしてから、次のプレーをしようとしていようとしたり、ボールを見すぎて回りを見れていないことがあります。そのためにも、いつボールがきてもいいように常に視野の確保をし、ワンタッチでプレーできるように日々の練習からこのことを意識し頑張っていきます。

　学習面では、知覧特攻平和会館や長崎、広島の平和資料館に行ったことで、昔に起きた悲劇や私たちが忘れてはいけない過去を改めて詳しく知ることができました。知覧特攻平和会館には、昔の記録や遺書がたくさんあり、昔何が起きたのか、どのようなことをしたのか、昔の人はどのような思いで生きていたのかがよく分かりました。そして、特攻する怖さと特攻した人の思いを今生きて私たちが継がないといけないと感じました。長崎、広島の平和資料館で、特に印象に残ったのは、原子爆弾の影響を受けた人の写真でした。その写真を見て僕はすごく辛く、原子爆弾がどれだけ危険な核兵器だとよく知ることが出来たり、生き残った人の言葉を見て、悲劇さをすごく感じました。原子爆弾は広範囲に大きな影響を及ぼし、それが当たった瞬間死に至ったり、重傷だったりして恐ろしさをすごく感じました。そして、このことがあったから日本は核兵器を持たないようにし、今の平和な日本があると思いました。これからの生活も平和な日本があることに感謝して生きていこうと思いました。

　僕は今回の遠征でサッカー面や学習面でも学べたことが多く、楽しかったです。サッカー面では、できたことやできなかったことがあり、できなかったことを課題にし、これからの練習や試合で改善していきたいと思います。

　最後に田崎コーチ、沖宗コーチ10日間指導や運転ありがとうございました。そして、今まで支えてくれた親にも感謝します。本当にありがとうございました。

以上です

座間FC　3年　曾根　彪牙。

まずは、この10日間運転や指導をしてくれたコーチ方ありがとうございました。

僕はこの遠征で成長したことと、できなかったこと改善点を話します。最初に、サッカー面について話します。

個人のことでは、遠征初日に活動量が少なかったことです。

理由は、熱さに負けて人任せにして、自分が楽をしようとしてしまったからです。改善点としては、熱さに負けないで、自分から行動して人任せにしないこと。

また、チーム全体としては試合前のアップ不足で1本目の試合がうまくいかないことが多くあり、5メートルやファーストコントロール、セカンドコントロールが乱れてしまった。改善点としては、試合前のアップ不足をなくし、しっかりとアップをすること。

逆に良かったことや成長できたことは、ラインコントロールの声出しが前よりも増えたことと、味方のカバーや必死こいてスライディングすることが出来たことです。

チーム全体では、みんなが声を出してコミュニケーションをとって、点差関係なく楽しくサッカーをすることができて良かったです。

次に生活面では、沖宗コーチが言っていた目配り気配りができていなくて、スリッパがバラバラになってしまう粗相がありました。その理由は自分で精一杯で相手の立場で考えられてなかったからです。

良かったことは、何個かのチームが合同で遠征に来たが、コミュニケーションを取りチーム１つになれたのが、とても良いことだと思いました。

社会勉強で、知覧特攻平和館や長崎原爆資料館、広島平和記念資料館に行来ました。

そのうちの、知覧特攻平和館と広島平和記念資料館を話します。知覧特攻隊平和館では、特攻するという恐ろしさを感じることができました。講和では、5人の特攻隊員と1匹の犬のお話をしていて、特攻する2時間前にあった犬と笑顔で戯れていて、これから自分は死に行くのに、笑顔でいられることが凄いし、死ぬとわかっていて特攻するということの怖さを感じました。広島原爆資料館では、原爆が及ぼす被害の恐ろしさを感じることができました。放射線被爆によって白血病やがんで亡くなる人が増えました。さらに放射線以外の火傷や爆風による外傷、医薬品の不足などによって、様々な症状が現れました。がんの潜伏期間は長いので、原爆が終わった後も亡くなる恐れが充分にあるなど原爆によって出た放射線が人体に及ぼす影響は凄まじいもので、原爆はとても恐ろしいものだと改めて感じることができました。

今回の遠征でサッカーや生活面、社会勉強などいろんな体験をすることができました。初めて西日本に来で高校生や強い相手とサッカーをすることができた。それらの相手と釣り合うくらい戦えるようになったのは、今まで練習や合宿での指導をしてくれたコーチ達、一緒に助け合い戦った仲間がいたからこの遠征で通用したと思います。

運転や宿舎、対戦相手を調べて決めてくれた田崎コーチ、僕たちを成長させるため、守る為に指導をしてくれた沖宗コーチ、お金を出してくれた保護者、一緒に戦ったチームの仲間などいろんな人が関わってこそできた遠征なので関わってくれて人達に感謝をしています。10日間の長い間お疲れ様でした。そしてありがとうございました。これで終わります。

座間FC　3年　大竹　快翔

今回の9泊10日の遠征では、九州や広島、京都など、いろんな場所を回りながら、強い相手とたくさん試合をしました。相手は高校生が多く、体格もスピードも全然違って、正直、通用しない場面もたくさんありました。でも、その中でも自分のプレーが通じた場面もあって、自信につながるところもありました。特に自分はコーチにどうした、大竹と言われるほどボランチでの動きが成長したと思います。そして今の自分に足りないことも分かりました。それは、特に左足のキックとファーストコントロール、セカンドコントロールの質を上げることです。これは普段の練習から意識をして成長させていけたらいいなと思いました。

今回の遠征で僕は声を出すことを心がけて試合を行いました。センターバックをやる時は、基本声を出し続けることができたが、ボランチの時に声が止まる時がありました。ですが、遠征中に修正して、最終日の試合では全体に声を出し続けることができたと思います。おきむねコーチに点差は気にせず、自分達のプレーをやれと言われて、失点しても盛り上げてこれからも日々成長していけたらいいなと思いました。

今回の遠征はサッカーだけじゃなくて、いろんな場所を見て学ぶ機会もありました。

鹿児島では知覧特攻平和会館に行って、実際に若い人たちが家族にあてた手紙や、使っていた品を見ました。自分と同じくらいの年齢の人たちが、家族や日本の未来のために命をかけて飛び立っていったことを思うと、自分だったらできる自信がないし、本当にすごいんだなと思いました。そして自分が今こうしてサッカーができたり、友達と笑い合えたりすることがどれだけ幸せなのかを考えさせられました。

広島では原爆ドームや平和記念資料館に行きました。原爆の被害にあった人たちの写真や記録を見て、とてもショックを受けました。特に、子どもたちが亡くなった話や、家族を失った人たちの話は、胸が苦しくなりました。戦争の恐ろしさや、平和の大切さを強く感じました。

今回の遠征は、サッカーだけじゃなく、人としても大事なことをたくさん学べたと思います。これからの生活やプレーの中でも、今回の経験をしっかり生かしていきたいです。最後に、こんなに貴重な経験をさせてくれた。おきむねコーチ、田崎コーチ、本当にありがとうございました。そして色々な面でささえてくれた。保護者の方本当にありがとうございました。

座間FC　2年　田沼　宗敏

 今回の遠征の抱負はミスを減らし迷惑をかけないこと、声をかけ続けることでした。最初は出来ないことが多かったけど、毎日少しずつ成長していけたと思います。これから自分の課題、チームについて、私生活について、平和学習の感想を話します。

 自分は裏に蹴られたボールやセットプレイで前に出てボールにチャレンジすることが苦手です。ゴロできたボールに対してはペナルティエリアの外まで出てクリア、パスが出来る事が少しずつ増えました。浮いたボールの処理でミスが多く、思った方向とは違う方向に飛んでしまったり、相手に当ててピンチになったりしました。上手く当てられなかった時は少し躊躇っていたと思います。今後同じように裏にボールが出た時は自信を持って飛び出し、気持ちで負けないようにします。コーナーキックなどのセットプレイは数が少なくあまり成長できなかったと思います。でも遠征で大きく成長出来た気持ちがあるので技術的なミスはあってもボールにチャレンジしないということはあってはならないと思います。

 この遠征で変わったのは個人だけでなくチームとしても変化したと思います。特に変化した所は、バラバラだったチームが最終的に1つのチームとして戦えたことだと思います。ですが課題も多くあります。まずは5m10mメートルのパスがズレること、ファーストコントロール、セカンドコントロールがズレたり大きくなりすぎること。そして無駄なドリブルでボールを持ちすぎる事です。パスミスやコントロールは日々の練習をもっと大切にしないと成長しません。無駄なドリブルは周りの選手が運動量を上げて声をかけることや、ボールホルダーがボールを受ける前に一手二手先まで考えることで改善できると思います。遠征で成長したことを忘れ、元に戻る事が無いようにしたいです。

 私生活の面では、4日目から気が抜けて粗相が増え、注意されても2日でまた気が抜けてしまっているので、アンテナを高く、気を配ることを辞めては行けません。僕は2年生でまだ遠征が1回あるので、来年は粗相をしない事を当たり前に、粗相をさせないように気を配りたいです。

 平和学習では知覧特攻平和会館や長崎、広島の平和資料館に行きました。

知覧では高校生位の人が特攻し、未来の平和を願っていました。特攻した人達の希望を裏切らないように1日1日を大切に生きようと思いました。長崎、広島では平和資料館に行き原子爆弾の恐ろしさを改めて実感しました。長崎は広島より被害が少ない事、広島より長崎に落とされた核爆弾の方が強力ということに驚きました。半世紀以上前の核爆弾2つで、これ程の被害を出したのに、今アメリカやロシアなどに前のものより性能の上がった核爆弾が5000個以上あることがとても恐ろしいです。長崎では原爆の恐ろしさ、広島では被爆者の被害の大きさを感じました。

戦争、特攻、原子爆弾の恐ろしさを詳しく知れて良かったです。

 最後に10日間の遠征でサッカー面、私生活の面で多くの気づきがありました。このような貴重な経験ができたのは、田崎コーチ、沖宗コーチが選手以上に頑張ってくれたからです。そしてお母さんお父さんが自分の事を応援してくれたからです。ありがとうございます。 10日間お疲れ様でした。

VIENTO　3年　森本　剛稀

ぼくがこの夏に参加した「9泊10日のサッカー遠征」について話したいと思います。

ぼくたちは、京都・広島・九州をまわりながら、いろいろなチームと試合をしました。相手は高校生や全国レベルの強いチームばかりで、すごくいい経験になりました。試合では、スピードやパワー、判断の速さなど、今の自分に足りないことをたくさん感じました。

試合中、コーチからは「手を広げろ」と言われました。それは、プレーの幅を広げたりするための大事なアクションだと思いました僕自身もそれを意識してプレーすることで、パスが通りやすくなったり、周りを動かすことができたりしました。

また、遠征中には、知覧特攻平和会館や広島の原爆ドーム、平和記念資料館なども見学しました。知覧では、10代で命をささげた若者たちのイショや写真を見て、今ぼくたちがこうしてサッカーができている日常のありがたさを感じました。広島では、原爆の恐ろしさや、戦争がもたらす苦しみを深く知ることができました。

サッカーも平和も、相手への思いやりやリスペクトが大切だと、遠征をつうじてあらためて感じました。この経験をこれからのプレーや生活にも活かしていきたいです。

座間FC　3年　小野田　純也

スピーチ

僕の抱負の「逃げないこと」、「人任せにしない」ことです。しかし最初は高校生相手にビビって体を張れなかったりボールをもらうような動きをしないことを最初はしてしまいました。でもそれを続けると自分は成長出来ないし、その辛いものを乗り越えてこそ遠征だと思ったので、沖宗コーチに言われたように「意識したミスはミスじゃない」を意識してプレーをしました。そしたら少しずつ変わってきて高校生に勝った場面など少し出てきてもっと楽しくなりました。

また人任せにしないことについても熱くて体力が消耗して人に任せたくなることが何度かあったし何回か任せてしまったこともありました。でもそういうときこそ自分から声を出したり、走ることでチームの流れが変わると実感しました。この9泊10日は自分にとってとても大きな経験になりました。楽しいことばかりじゃなくて、苦しいこともあったけどその分だけ成長出来ました。これからもこの抱負を忘れずに闘います。

また最初はふじさわの選手と仲良くなれるか不安でしたが関わってみるとみんな面白くて楽しかったです。

最後に指導や運転、事務などの田崎コーチ。運転や指導をしてくれた沖宗コーチ、最後まで一緒に闘ってくれたチームのみんな。この遠征に行くためのお金を出してくれた保護者の方。本当にありがとうございました。藤沢の選手また絶対に逢いましょう。